

## あとがき

今年の6月以来、三宅島ではいつおさまるとも知れない火山活動により、島民にとって先の見えない苦難の日々が続いている。9月には全島民の島外避難が完了する予定である。ライフラインの維持管理にあたる人々のみ残留することになるが、火山活動の状況によっては脱出もありうるということである。大いなる自然の力を前にわれわれにはなす術もない。私は昭和53年12月、卒後研修が終了して間もない頃、わずか1か月の短期間ではあったが、三宅島の阿古診療所に出張したことがある。それ以後、昭和58年と今回の2回の噴火があり、そのたびに大きな被害が発生している。島民のことを思うと心が痛む。一刻も早い火山活動の

沈静化と島の復興を望む。

最近、遺伝子診断、遺伝子治療、遺伝子組替食品と、様々な領域で分子生物学の技術が応用されている。ヒトゲノムの解析もすばらしい速さで進行しており、ほとんどの疾患の発症予測が可能となる日もそう遠くないようである。遺伝子万能のような錯覚に陥りそうになるのは私だけであろうか。しかし、遺伝子としてそのサイズの差異はあるにしろ、火山と同じ大自然であることを認識すべきであろう。ミクロの大自然、遺伝子によりヒトを含む全生態系の秩序が維持されていることを思うと、われわれは遺伝子技術を応用する時、謙虚でありすぎることではない。（勝村俊仁 記）

## 幹事会（要旨）（平成12年5月）

- 第145回医学会総会の進行状況について報告があった。  
開催日時：平成12年7月1日（土）  
当番教室：病理学（1）、内科学（3）  
特別講演：小西真人主任教授、行岡哲男主任教授
- 臨床懇話会報告  
開催報告  
第300回 4月24日 泌尿器科学 間宮良美助教授  
第301回 5月23日 内科学（2）山科 章主任教授  
開催予定  
第302回 6月13日 内科学（3）  
第303回 7月 日 八王子医療センター
- 編集について種々討議した。  
査読が終わってから著者に戻した後、長期間戻ってこない論文については再提出の期限を切ることとし、この期限については編集委員会で決めることとした。
- 斉藤利彦先生、三木誠先生は本人の承諾を得たので、名誉会員として推薦することとした。尚、名誉教授の清水博之先生は、本人の承諾が得られれば名誉会員として推薦することとした。
- 平成11年度収支決算、平成12年度収支予算について説明があり、原案通り承認された。

## 医 学 会

渋谷 健（会長）  
伊東 洋（副会長）  
小柳 泰久（ ）  
内野 善生（庶務幹事）  
大屋 敷一馬（ ）  
石丸 新（編集幹事）  
友田 燦夫（ ）  
鈴木 衛（会計幹事）  
下 光 輝一（ ）  
星加 明德（監事）  
向井 清（ ）  
阿部 公彦（委員）  
飯森 眞喜雄（ ）  
一色 淳（ ）  
白井 正彦（ ）  
遠藤 任彦（ ）  
勝村 俊仁（ ）  
加藤 治文（ ）  
J. P. バロン（ ）  
高崎 優（ ）  
高山 雅臣（ ）  
長尾 桓（ ）  
林 徹（ ）  
松岡 健（ ）  
松宮 輝彦（ ）  
水口 純一郎（ ）  
山科 章（ ）

## 編集委員会

石丸 新  
飯森 眞喜雄  
遠藤 任彦  
鈴木 衛  
友田 燦夫  
長尾 桓  
J. P. バロン  
星加 明德  
松岡 健  
水口 純一郎  
向井 清

平成12年6月20日 印刷

平成12年7月1日 発行

東京医科大学雑誌 第58巻 第4号

発行者 渋谷 健

発行所 東京医科大学医学会  
（東京医科大学図書館内）  
東京都新宿区新宿6-1-1  
TEL (3351) 6141（代）  
FAX (3226) 7030

印刷所 大日本印刷株式会社  
東京都新宿区市谷加賀町1-1-1  
TEL (3266) 1111（代）